本県乳牛飼育の開祖　鯨井治助

渡辺洵一郎

天保一一年（1840）本町で代々塩・砂糖を業とする家に生まれた。明治になって養蚕業の必要性を悟り、明治三年（1869）養蚕飼育と蚕卵紙の製造を始めた。

江戸時代までは「牛乳を飲むと牛になる」といって人は牛乳は飲まなかった。ところが、牛乳の将来性と乳牛飼育が国策上極めて必要であることを思いつき、家業の塩・砂糖業をすっかりやめ、明治八年乳牛飼育の認可を得て、横浜の菅生謙次郎から短角牛一頭を購入して埼玉県で初めて牛乳搾取業始めた。これは本県乳牛飼育の開祖として輝かしい名を残すことになった。

当時牛一頭が 200 円（田一反の値段が 20 円）だったので高価なことがよく理解できるであろう。

この頃の牛乳の需要者はわずか二人といいその苦労が想像される。従って幾度も失敗したが不撓不屈の精神を貫き努力したため営業は次第に向上し、明治二三年には支店と組合店七ヶ所、郊外配達九ヶ所を設け発展したので、コンデンスミルクやバターの輸入を防ぐことになったという。

牧場は裁判所の近くだったので多く飼育するには適せず他に場所を探していた。旧熊谷堤の南（現宮本・宮前町等）は当時荒川の洪水対策として遊水池にするため松山県道沿いを除いては住宅建築が許可されなかったが、乳牛飼育の鯨井牧場一軒だけが特別に認可され現宮前町に明治一五年に移転して永く営業を続けた。

明治三五年九月二八日逝去。六三歳。

（熊谷市公協だより　第 24 号　平成 8 年より）